

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

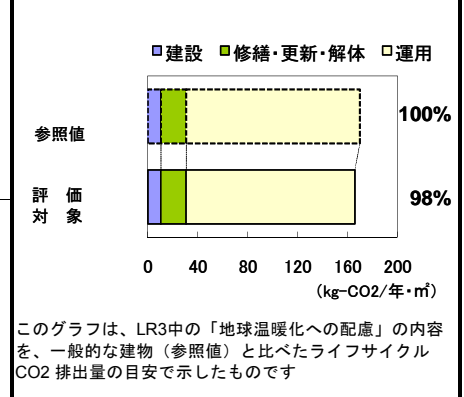
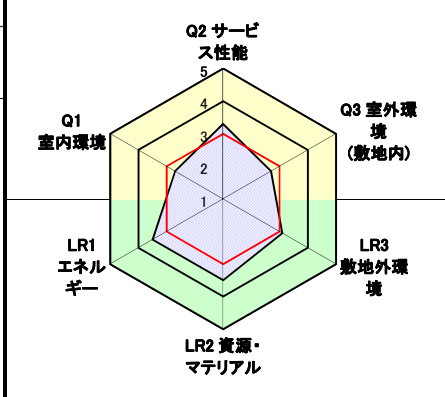
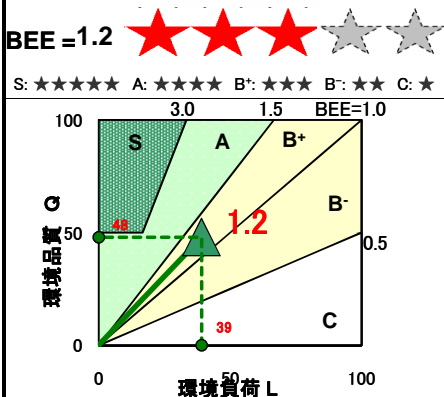
1. 建物概要					
建物名称	新津産科婦人科クリニック				
建設地	江南区 横越中央七丁目737-5、765-10				
用途地域	準工業				
建物用途	病院				
竣工年	2012年3月 予定				
敷地面積	6,612.23 m ²				
建築面積	1,336.67 m ²				
延床面積	3,480.72 m ²				
階数	地上4F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2011年6月20日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
			B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{48}{39} = 1.2$	
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
	3.0		維持管理	Q2.1.3	3.0
			更新性	Q2.3.3	3.0
			2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア	
	3.2		信頼性	Q2.2.4	3.4
			3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア	
	2.0				
			4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア	
	3.5		自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
			5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア	
	4.3		リサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
			6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア	
	2.5		敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
			7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア	
	3.0		地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
			4. 新潟市の重点項目の配慮事項		
2: 地震への: 信頼性を高めるために非常用発電機の設置及び光ケーブルの引き込み、携帯電話網などにより通信手段の多様化を図る。					
4: 自然エネルギー: 断熱材の強化、複層ガラスの採用による建物熱負荷の軽減					
5: 資源循環の: 節水型機器(エコマーク認定機器)の採用により節水に努め、乾式工法及びOAフロアの採用により部材の再利用向上を図る。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

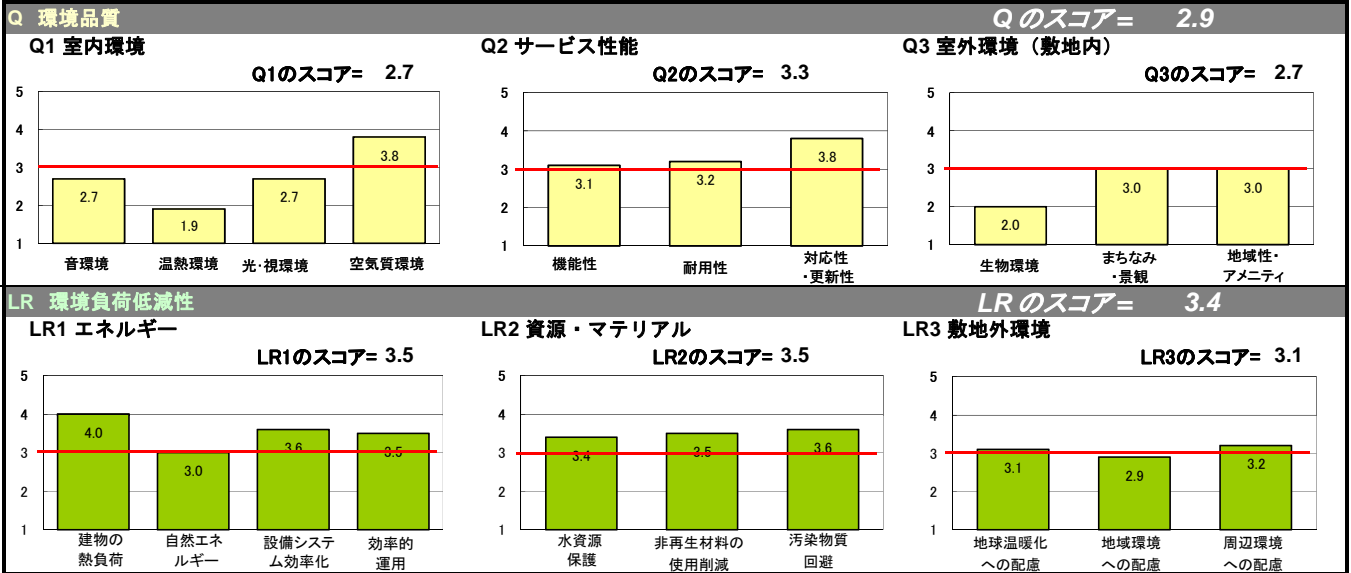
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) 2-2 大項目の評価 (レーダーチャート) 2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 ■既存敷地の排水施設、舗装、構造物を出来るだけ利用し、資材もリサイクル材を用いて環境へ配慮 ■敷地周囲に緑地帯を設け、花木も多種多様な樹種を選択し、周辺環境への形成 ■空調室外機、キュービクルを2階屋上に集約し、専用の機械架台を将来増設のスペースも見込んで設置し、騒音・振動の周囲への影響、将来の機械更新や防水のメンテナンスに配慮		その他 特に無し
Q1 室内環境 音環境に配慮し、病室部分の開口部遮音性能をT-2以上とする。また空気質環境を高めるために建築基準法規制対象外となる建築材料 (F☆☆☆☆) をほぼ全面的に採用するとともに、全館禁煙とする。	Q2 サービス性能 非常時に備え非常用発電機の設置及び光ケーブルの引き込み、携帯電話網などにより通信手段の多様化を図る。更新性に配慮した階高、壁長さ比率とした。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地周囲に緑地帯を設け、花木も多種多様な樹種を選択し、良好な周辺環境への形成に努める。
LR1 エネルギー 断熱材の強化により建物熱負荷の軽減、空調設備においては空調換気扇の採用により空調負荷の軽減を図る。また照明設備においてもLED電球の採用により省エネにも配慮する。	LR2 資源・マテリアル 水資源の保護の観点から節水型機器 (エコマーク認定機器) を採用する。またリサイクル材を採用する事により環境へも配慮する。	LR3 敷地外環境 交通負荷を抑制するために適切な駐輪場・駐車場を整備する。また光害への配慮から「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目及び「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される